

兵庫の林業

2014. 4 No. 268



もくじ

就任のご挨拶	1
平成26年度 林務課予算の概要	3
平成26年度 治山課予算の概要	5
平成26年度 自然環境課予算の概要	6
平成26年度 豊かな森づくり課予算の概要	7
△森を楽しむ▽ 春の六甲山で見かけた樹の花など	9
△普及だより▽ 西播磨地域における野生鳥獣被害対策	11
兵庫の巨樹巨木(9) (裏表紙)	
題字	兵庫県知事 井戸敏三氏

表紙の写真

日本土地山林株式会社が森林林業緊急整備事業を活用して購入したオーストリア製のタワーヤードです。

従来の機械よりもタワーが高い上、搬機の走行速度が速いので集材距離が延長でき、様々な地形条件での搬出作業が可能となります。

今後増加すると思われる急峻で作業道の作設が困難な林地でも対応できる新たな作業システムとして期待されます。

林務課長

就任のご挨拶

築山 佳永



このたび、林務課長を拝命いたしました築山でございます。

平素は、本県の森林・林業行政の推進に格別のご支援とご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本県では、人工林資源の成熟により、利用期を迎えた森林は60%を占めており、「伐採、利用、植栽、保育」の林業生産サイクルを円滑に循環させる「資源循環型林業」を構築させ、森林の多面的機能の持続的な発揮を図ることとしています。

今、本県の林業・木材産業を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えています。県内において、複数の木質バイオマス発電施設の整備が計画されており、これら施設の稼働によって、今後、木材の年間需要量は、(協)兵庫木材センターを含めた製材工場等に必要な256千㎡の原木に加え、木質バイオマス発電向けの燃料用として必要な170千㎡を合わせた426千㎡が

見込まれています。

未利用森林資源の活用など本県林業に対する期待はますます高まっており、原木を低コストで安定的に供給できる基盤整備をさらに加速化しなければなりません。

そのため、平成25年度までに設定した168の低コスト原木供給団地に加え、平成26～33年度に新たに192団地を設定するとともに、「新ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づき、平成33年度までに1,000kmの路網整備を進めます。また、高性能林業機械の導入促進や林業技術者の育成を推進するほか、未利用森林資源のバイオマス利用を軌道に乗せるための新たな支援を進めていきます。

なお、本年4月から消費税の引き上げにより、景気の腰折れや木材需要の反動減が懸念されています。このため、国の補正予算を活用して、森林整備や木造公共施設の整備支援など、総合的な対策を実施します。できるかぎり早期に着手して、効果的な実施に努めてまいります。

いづれにしましても、森林所有者へ収益を還元できる林業を目指して、本県林業・木材産業の活性化を図ってまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

治山課長

就任のご挨拶

渡邊 陽



平素は、本県の治山・林道行政の推進に格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は9月の京都府における台風18号災害、10月の伊豆大島での台風26号による土石流災害など全国各地で局地的な集中豪雨等により記録的な自然災害が発生しました。

本県でも、昨年9月の豪雨により人家裏山での地すべりなど山地・林道施設あわせて46箇所における災害が発生しましたが、関係者のご協力を得て1日でも早い復旧を目指して取り組んでいます。

また、治山事業では、平成21年度から取り組んできた「山地防災・土砂災害対策緊急5箇年計画」に基づき、平成25年度までに762箇所

の治山ダムを整備しました。これまでに整備した治山ダムが土砂や

減する効果が確認されています。本年度以降も引き続き「第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画」に基づき、大規模な山地災害への備えとして、治山ダムの重点的整備を進めるほか、地震対策や地すべり防止などの斜面防災対策、地域住民との協働による減災対策を総合的に推進していきます。

林道事業では、「資源循環型林業の構築」に向け、本年度からスタートした「新ひょうご林内路網1,000km整備プラン」の一環として、県営林道の整備を推進します。林内路網の骨格となる森林基幹道10路線のうち現在8路線が開通しています。残る路線の開設促進とあわせて素材の集積作業土場等の路網拠点の整備や改良工事の実施により、より一層活用される林道を目指します。

さらに、昨年度実施した、治山・林道施設の一斉点検調査の結果を踏まえ、施設の機能強化や改良などによる山地防災力の強化・施設の長寿命化対策に取り組んでいきます。

今後とも、皆様方により一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

自然環境課長

就任のご挨拶

中谷 康彦



このたび、自然環境課長を拝命いたしました中谷でございます。

平素は、鳥獣行政の推進に格段のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、野生動物による農林業被害は、平成24年度で約8億円で、その74%がシカとイノシシによるものです。また、シカの食害等による被害は、農作物等のみならず、下層植生の消失による森林の公益的機能や生物多様性の低下など、深刻な影響を及ぼしています。

このシカ被害対策については、全国的に生息域が拡大していることから、県では、平成22～28年度までの間、年間3万頭を目標に捕獲を推進し、25年度からは、さらに5千頭追加、年間3万5千頭の捕獲を目指して進めています。

具体的には、広域一斉捕獲や捕獲専任班の活動、狩猟中のシカ

捕獲に対する報償金制度など、年間を通じた捕獲を進めてきました。これらの結果、平成22～24年度は3年連続で目標の3万頭を上回り、25年度の3万5千頭についても、新規施策「ストップ・ザ・獣害」事業による捕獲効率向上などにより達成の見込みです。

その一方で、狩猟者の高齢化や減少が進み、適切な有害鳥獣の駆除対策に支障を来す恐れがあることから、狩猟後継者の育成・確保対策として、射撃訓練への助成や狩猟現地体験会開催等に加え、26年度から新たに、有害鳥獣捕獲入門講座・実践研修を実施します。

さらに、イノシシ・サル・クマ等の野生動物に加え、近年農林被害や生活環境被害も広がっているアライグマ、ヌートリア等特定外来生物による被害対策も進めます。

また、野鳥の鳥インフルエンザ対策として、野鳥の検査対応や定点調査など監視体制強化に努めるほか、愛鳥週間ポスターコンクール、警察犬・盲導犬等功労動物の表彰などを引き続き実施します。

今後とも一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

豊かな森づくり課長

就任のご挨拶

今里 卓



豊かな森づくり課では、県民共通の財産である森林を「県民総参加」で守り、育て、活かし、拡げる取組を推進するため、「新ひょうごの森づくり」として、平成14年度から第1期対策を10年間実施し、更に平成24年度からは第2期

対策として、①「公的関与による森林管理の徹底」②「多様な主体による森づくり活動の推進」を基本方針に、経済林としての再生とともに森林の持つ公益的機能の高度発揮を図っています。

①としては、「森林管理100%作戦」による間伐の徹底や、間伐材搬出促進のための作業道開設への支援を、また、「里山林の再生」として、地域住民等が行う集落周辺のに山林の整備活動への支援を行っているほか、②については、森林ボランティア活動を維持・強化するための養成講座や、社会貢

献活動の一環として森づくりに取り組む企業に対し、活動地の斡旋や活動計画への助言などの支援を行っている。平成25年度からは、地域住民や森林所有者が協力して里山林の景観保全などの日常的な管理活動と森林資源を活用する活動についても助成する「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」に取り組み、地域の森林の保全管理の充実化を図っています。

また、「県民緑税」を活用した「災害に強い森づくり」では、森林の持つ防災機能の強化を早期・確実に推し進めるため緊急防災林整備、里山防災林整備、針葉樹林と広葉樹林の混交林整備、野生動物育成林整備、住民参加型森林整備の各事業を進めています。加えて、平成24年度からは収益性の低い人工林を将来的に広葉樹に誘導する「広葉樹林化促進パイロット事業」にも取り組んでいます。

第2期4年目の本年度は、事業推進とともに事業効果の検証や今後の方向性を検討し、広く県民の皆様にお知らせしたいと思えます。

今後とも一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

生や就労環境の改善、労働安全衛生の向上を図る。

森林林業緊急整備事業（人材育成） 63,493千円

森林技術者確保定着促進事業 13,534千円

(2) 森林組合の育成

健全で持続的な経営によって、組合員の期待に応えることができる森林組合を育成するため、利用事業の展開や経営改善などの自主的な取り組みを支援するとともに、合併等の促進による経営基盤と執行体制の強化を図る。

森林組合等経営基盤強化対策事業 2,397千円

森林組合機能強化資金貸付金 300,000千円

(3) 林業・木材産業の経営基盤の強化

林業・木材産業事業体に対して、低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

林業・木材産業改善資金貸付金 150,000千円

林業振興資金利子補給事業 1,362千円

木材産業等高度化推進資金 570,209千円

特用林産振興事業 250千円

【拡】 県産木材利用促進特別融資事業

（製材用原木の取扱に係る運転資金）

300,000千円（内数）

3 県産木材の供給体制の整備と利用拡大

(1) 県産木材供給システムの構築

（協）兵庫木材センターのほか、既存の木材流通、加工部門を含めて、県産木材の品質・性能の向上のための施設導入や、原木の安定供給体制の確立に向けた取組等を支援する。

森林林業緊急整備事業

（木材加工流通施設等整備） 58,408千円

県産木材供給体制整備事業 500千円

(2) 県産木材の利用拡大

「伐採・利用・植栽・保育」の林業生産サイクルを円滑に循環させるため、県産木材、及び未利用森林資源を活用した木質バイオマス等の利用拡大を図る。

① 公共施設等の木造・木質化の推進

展示効果が見込める公共施設等の木造化、木質化を進めるほか、太陽光パネルへの木製架台等のモデル導入支援など、これまで木材が使われてこなかった分野での木材利用を促進する。

森林林業緊急整備事業

（木造公共施設等整備） 30,000千円

（地域材新規用途導入促進支援） 134,000千円

② 県産木材を使用した住宅の建設促進

長期固定で低利な融資制度（年利率0.9%）や家づくりセミナーなどによる県産木材利用住宅の建設促進や、「木の匠」登録制度による工務店の県産木材利用意欲の喚起、住宅コンペによる優れた木造住宅の顕彰を実施する。

森からまちへ木材利用促進事業

（「木の匠」登録、住宅コンペ事業） 331千円

県産木材利用木造住宅特別融資事業

15,133,713千円

県産木材利用住宅建設促進事業 1,620千円

③ 暮らしに身近な木製用品を活用した普及啓発

県産木材を使用した住宅内装材や木製学習机、玩具など、多様な木材利用を提案するほか、店舗や駅舎など多くの県民が利用する民間施設での木材利用事例をとりまとめ、広く県民にPRする。

森からまちへ木材利用促進事業

（木のある街づくり事業） 169千円

暮らしの中に木材を取り入れる運動推進事業

（木製用品利用拡大） 2,770千円

④ 木質バイオマスの利用促進

木質バイオマスの利用を進めるチップ工場やボイラー等の施設導入等に対して支援するほか、未利用間伐材等の仕分け、乾燥に必要な山土場整備や、一般材と比べ掛増しとなる輸送コストに対して支援する。

森林林業緊急整備事業

（木質バイオマス利用施設等整備） 622,159千円

【新】 バイオマスヤード整備事業 3,600千円

【新】 木質バイオマス輸送コスト支援事業

4,750千円

【拡】 県産木材利用促進特別融資事業

（バイオマス燃料用木材の取扱に係る運転資金）

300,000千円（内数）

平成26年度 林務課 主な事業 当初予算額

48,974,049千円（対前年度比102.8%）

（+補正） 49,561,149千円（対前年度比104.1%）

平成26年度 林務課予算の概要

県では、人工林22万 ha の成熟化が進む中、「伐採・利用・植栽・保育」の林業生産サイクルが円滑に循環する「資源循環型林業」の構築をめざしています。

今般、県内においても、複数の木質バイオマス発電施設の整備が計画されるなど、未利用森林資源の活用による本県林業に対する期待は高まっています。

一方、木質バイオマス発電施設の稼働によって、今後、木材の需要量の増加が見込まれることから、生産能力の強化を図っていく必要があります。

このため、間伐を集中的に進める「低コスト原木供給団地」の設定や、高性能林業機械の導入促進、作業道等の整備を進めるとともに、未利用森林資源のバイオマス利用を軌道に乗せるため、山土場整備や輸送経費等への支援を新たに進めていきます。

また、消費税引上げに伴う木材需要の反動減を回避し、林業・木材産業の成長産業化を実現するため、国補正予算を活用して、多様な森林の整備や境界の明確化、木造公共施設の整備支援など、総合的な対策を緊急に実施します。

1 多面的機能の発揮に向けた森林整備

(1) 多様な森林の整備

人工林のうち、育成単層林については、気象災害等に配慮しつつ、間伐等を推進するとともに、地形や地質等により皆伐を避けるべき森林については、針広混交林化や天然林へと誘導する等、多様な森林の整備を図る。

地域森林計画策定事業	16,481千円
造林事業	1,289,311千円
造林事業（25年度補正）	587,100千円
重要水源林機能高度化事業	22,000千円

(2) 施業集約化の促進

森林施業の集約化を促進するため、森林経営計画の作成や森林境界の明確化等を支援する。

森林整備地域活動支援事業	133,986千円
森林林業緊急整備事業（森林境界の明確化）	104,632千円

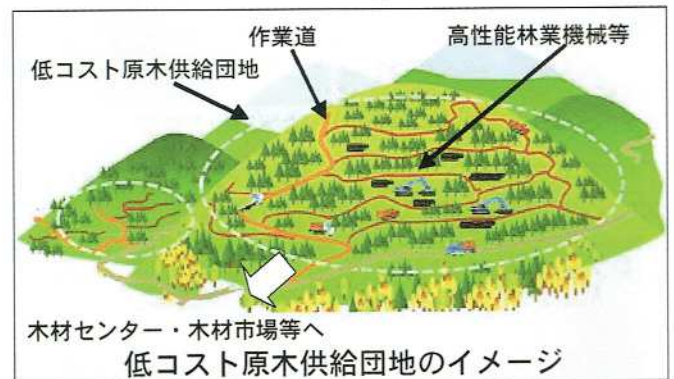
(3) 生産基盤の整備

（協）兵庫木材センターを含めた製材工場等に必要な256千 m³/年の原木に加え、木質バイオマス

発電向けの燃料用として必要と見込まれる170千 m³/年を合わせた426千 m³/年の原木を低コストで安定的に供給できる基盤を整備する。

そのため、小規模・分散している森林の団地化を進めており、平成18～25年度に設定した168の低コスト原木供給団地に加え、平成26～33年度に新たに192団地を設定するとともに、新たな「ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づき、平成33年度までに1,000kmの路網整備を進める。

森林林業緊急整備事業（林内路網整備）	55,800千円
森林資源活用システム整備事業	15,075千円
森林林業緊急整備事業 （高性能林業機械等の導入）	139,491千円
【拡】県産木材利用促進特別融資事業 （高性能林業機械等導入資金）	300,000千円（内数）



(4) 林業技術の普及

林業普及指導員による林業技術の普及指導活動や高性能林業機械等の林業技術研修、指導林家等・山村リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者を育成する。また、市町村森林整備計画や森林経営計画の作成実行を技術面で市町を支援する「地域森林総合監理士（フォレスター）」を育成する。

林業技術普及費	4,275千円
---------	---------

2 林業の担い手の育成

(1) 林業労働力の育成・確保

森林資源が成熟化するなか、高性能林業機械の操作や大径木の伐倒作業など素材生産を低コストで安全に行える森林技術者や、施業集約化を担う森林施業プランナーを育成するとともに、福利厚

平成26年度 治山課

予算の概要

近年県下各地で頻発するゲリラ豪雨等による自然災害に備え、治山事業に積極的に取り組み、山地に起因する災害から県民の生命財産の保全を図ります。

「第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画」(平成26～30年度)に基づき、治山ダムの計画的な整備を進めるほか、落石対策や地すべり防止など山地防災・土砂災害対策を総合的に推進します。

ソフト対策では、山地災害危険地区の周知徹底、山地防災教室の開催、集落裏山の防災マップの作成支援など、地域住民と一体となった総合的な防災・減災対策を引き続き推進し、県民の防災意識の喚起と地域防災力の向上を図ります。



治山ダムの整備 (丹波市)



六甲山の災害展 (神戸市)

林道事業については、「資源循環型林業の構築」に向け、間伐等の適切な森林整備の推進や原木を低コストで搬出するため、「新ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づき、骨格となる森林基幹道・過疎代行林道線の重点的整備と改良工事等による林道の保全、維持管理に努めるとともに、森林基幹道沿線において木材の集積作業土場等の路網拠点を整備し、県産木材の安定供給を促進します。



全線開通した「千町・段ヶ峰線」からの木材搬出

1 治山対策の推進

(1) 「第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画」の推進

災害発生時に人家への影響が大きい箇所や流木・土砂流出の危険性の高い箇所を対象に、480基の治山ダムを整備する。

26年度は第2次計画初年度として96基の整備を実施する。

(箇所数)

計画区分	H26	H27	H28	H29	H30	合計
人家保全対策	70	70	70	70	70	350
流木・土砂流出防止対策	26	26	26	26	26	130
計	96	96	96	96	96	480

(2) 治山施設の維持管理・機能強化対策

治山施設の老朽化点検結果を踏まえ、修繕等の治山施設の維持管理及び増厚・嵩上げ等の機能強化対策を図る。

(3) 「新ひょうごの森づくり」第2期計画の推進

森林の過密化により林床植生が消滅し表土が流出する等、機能が低下した保安林を対象に、本数調整伐等保安林における計画的な森林管理を推進する。

【治山事業費】

公共治山事業費	4,121,781千円
治山施設災害復旧事業費	10,000千円
県単独治山事業費	259,000千円
県単独緊急防災事業費	780,000千円
合計	5,170,781千円
(別途25年度補正予算)	521,686千円

2 林道整備の促進

(1) 県営林道の開設・改良

林内路網の骨格となる森林基幹道2路線及び過疎代行林道2路線でコスト縮減等により開設促進を図る。また、車両の安全な通行を確保するため、巡視や補修等の維持管理対策を行うとともに、路面の舗装や法面保護工、ガードレールを設置する等の改良工事を積極的に実施する。

(2) 路網拠点の整備

森林基幹道と作業道を接続させるための支線林道や木材の集積作業土場等の路網拠点を設置する。

【林道事業費】

公共林道事業費	931,863千円
公共林道事業費(管理費)	45,583千円
林道施設災害復旧事業費	142,056千円
県単独林道事業費	340,400千円
合計	1,459,902千円

3 里山防災林整備(災害に強い森づくり)

集落裏山にある里山林の山地防災機能向上のため、危険木除去等の森林整備や丸太柵工等の簡易防災施設の整備を実施する。

○造成20箇所、調査20箇所(300ha)

430,700千円

平成26年度 治山課 主な事業 当初予算額
7,061,383千円(対前年度比101.7%)

(人供後、一般事務費含む)

※別途(25年度補正)521,686千円(人供後)

平成26年度 自然環境課 (野生鳥獣対策関連) 予算の概要

野生動物対策の推進

地域の実状に応じた野生動物の生息地管理、個体数管理、被害管理を総合的・科学的かつ計画的に進める“ワイルドライフ・マネジメント”に取り組むことにより、農林業等への被害軽減を図るとともに、シカ肉等の有効活用を図り、人と野生動物との調和のとれた共存をめざす。

1 新規施策

狩猟後継者の育成・確保 10,935千円
鳥獣捕獲の主たる担い手である狩猟者の減少・高齢化により捕獲従事者が不足する中、鳥獣保護管理に携わる人材の育成及び捕獲体制の強化等を重点課題として取り組む。

- (1)有害鳥獣捕獲入門講座運営事業【新規】7,425千円
- (2)有害鳥獣捕獲支援体制整備事業【新規】1,595千円
- (3)銃猟技能向上支援事業【新規】275千円
- (4)狩猟技能向上促進事業【継続】1,000千円
- (5)狩猟免許講習会支援事業【継続】199千円
- (6)狩猟現地体験会・ハンター養成出前講座【継続】441千円

2 シカ対策の推進

農林業被害の軽減と被害地域拡大の防止を図るため、平成25年度に引き続き、短期集中的に捕獲目標頭数を3万5千頭とし、鳥獣被害防止特別措置法等に基づく特別交付税措置を最大限活用しつつ、捕獲及び防護柵設置の対策を進めるとともに、シカ肉等の資源活用の促進を進める。

- (1) 捕獲の拡大
- ・シカ有害捕獲促進支援事業 9,521千円
 - ・シカ有害捕獲専任班支援事業【拡充】9,600千円
 - ・狩猟期シカ捕獲拡大事業【拡充】113,000千円
 - ・シカ焼却処分支援事業 600千円
- (2) 防護柵の設置支援
- ・鳥獣被害防止総合対策事業 470,522千円
 - ・野生動物防護柵集落連携設置事業 50,000千円
- (3) シカ肉の流通促進と需要拡大等
- ・シカ肉利用促進支援事業 400千円
 - ・シカ肉需要拡大対策事業 1,360千円
 - ・シカ肉処理加工施設への搬入支援 700千円
 - ・シカ肉処理加工施設整備事業 33,000千円

3 その他の鳥獣対策の推進

「特定鳥獣保護管理計画」に基づき、生息数の安定維持を目指した個体数管理、被害管理、生息地管理等

を進める。また、近年増加している特定外来生物（アライグマ、ヌートリア）の捕獲を進める。

- ・ストップ・ザ・獣害（緊急雇用創出事業） 34,713千円
- ・野生動物捕獲用わな緊急整備事業 467千円
- ・ツキノワグマ出没総合対策事業 1,415千円
- ・サル出没対策事業 24千円
- ・サル監視員配置支援事業 1,442千円
- ・特定外来生物被害対策事業 14,000千円
- ・カワウ等繁殖抑制モデル事業 1,364千円



【村岡小学校給食（香美町）】

【ふれあいの祭典（尼崎市）】

平成26年度 自然環境課 (野生鳥獣対策) 予算額

- ・野生動物保護管理費 860,222千円
(対前年度比 107.9%)
- ・緊急雇用創出事業 34,713千円
(対前年度比 53.5%)



※イラスト（シカ）：兵庫県森林動物研究センター提供

◇平成26年度狩猟免許試験のご案内

【免許の種類】

- ・網猟（主に鳥類）
- ・わな猟（獣類のみ）
- ・第一種銃猟（装薬銃、空気銃）
- ・第二種銃猟（空気銃）



【試験の日程と場所】

1回目

- ◇申込期間 平成26年6月2日～7月1日
- ◇知識・適性・技能試験日及び場所
 - 7月26日(土) 姫路
 - 7月27日(日) 養父・洲本 ※(わな猟試験のみ)
 - 7月30日(水) 神戸

2回目

- ◇申込期間 平成26年7月22日～8月19日
- ◇知識・適性・技能試験日及び場所
 - 9月6日(土) 神戸
 - 9月10日(水) 姫路

【お問い合わせ先】

各県民局（森林）林業課又は農政環境部自然環境課
(TEL078-362-3463)

◇初心者講習会のご案内【一般社団法人兵庫県猟友会主催】

- 1回目 5月31日(土)
- 2回目 8月9日(土)

【お問い合わせ先】

(一社)兵庫県猟友会 TEL078-361-8127

ることにより、山地災害防止や野生動物の生息環境保全など森林の公益的機能を高度に発揮する多様な森林として、将来的に広葉樹林へ誘導する。

・広葉樹林化促進パイロット事業

[更新伐100ha、作業道開設9.9km] 9,463千円

※国公共造林事業による更新伐、広葉樹植栽、作業道開設等の補助残額を県・市町が連携し公的負担

4 森林の保全・管理

(1) 保安林の指導等

山地災害危険地区などの保安林指定を進めるとともに、公益的機能の維持・増進に資する保安林の森林施業の確保、標識設置や伐採等の行為制限による保安林管理体制の整備等を通じて、保安林の適正な管理、保全を図る。

・保安林等整備管理費 17,703千円

(2) 無秩序な開発行為の規制

森林が持つ公益的機能を確保するため、地域森林計画対象森林における、無秩序な開発行為を規制し、森林の適正な利用を図る。

・林地開発許可制度実施費 1,830千円

(3) 森林の保全

保安林及び林野火災の危険性の高い森林について、無許可伐採や違反行為の早期発見、林野火災の予防啓発、森づくり活動の指導などを目的として「森づくり指導巡視事務嘱託員」を配置し、森林の保全部管理を図る。

また、森林経営基盤を支え持続可能な経営を確保するため、林野火災や干害等の気象災害を補填する森林国営保険の加入を促進するとともに、林野火災等自然災害の予防の啓発を行う。

・新ひょうごの森指導巡視事業 8,018千円

・森林国営保険事務取扱費 3,752千円

・森林災害予防啓発普及事業 800千円

5 森林病虫害被害対策

(1) 松くい虫被害対策

①保安林等の公益的機能の高い松林や地域経済上重要な松林を防除区域と定め、特別防除、地上散布、樹幹注入等の予防対策と、伐倒駆除や造林事業（衛生伐）の駆除対策を組み合わせ、松林機能の保全を図る。また、被害を受けにくい松林を造成するため、抵抗性マツ『ひょうご元気松』10

万本植栽事業（24～28年度）を継続実施する。

②環境へ配慮した防除を推進するため、駆除対策については特別伐倒駆除及び天敵利用型伐倒駆除の実施拡大を行う。

○特別伐倒駆除：農薬の軽減及び被害木再利用のため、被害木を伐採後に破碎・焼却するべく、搬出可能な高度公益機能森林において実施する。

○天敵利用型伐倒駆除：農薬の軽減を図るため、集積した被害木に微生物不織布製剤を設置するべく、集積可能な高度公益機能森林で実施する。

③景観の保全が必要な箇所において過年度枯れ被害木を伐倒処理する。

・予防対策（特別防除、地上散布、樹幹注入） 43,581千円

・駆除対策（伐倒駆除、特別伐倒駆除、天敵利用型伐倒駆除） 56,126千円

・ひょうご元気松10万本植栽事業 1,028千円

・県単独松くい虫被害等景観対策事業 3,141千円

(2) ナラ枯れ対策

被害の範囲が拡大しているカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害については、被害の拡大を防止するため、被害先端市町において重点的な防除に努めるとともに、保安林等公益的機能の高い森林で防除を実施し、森林機能の低下を防止する。

・その他法定病虫害駆除事業
（ナラ枯れ被害対策） 6,689千円
（伐倒駆除（くん蒸）、噴霧剤処理（粘着剤塗布）、樹幹注入、粘着シート）

6 里山森づくり担い手支援事業（緊急雇用就業機会創出事業）

（里山森づくり地域支援事業（H25）の組み替え新規）

緊急雇用対策の一環として失業者を雇用し、既存の公的事业では手の行き届かない箇所において森林整備を行うことにより、地元要望にきめ細かく対応し、環境と景観の保全を図ることで美しい兵庫の森の創出に寄与する。

・里山森づくり担い手支援事業 73,000千円

平成26年度	豊かな森づくり課
	主な事業 当初予算額
	11,633,944千円（対前年度比111.7%）

平成26年度 豊かな森づくり課 予算の概要

県民共通の財産である森林の機能回復を社会全体で進めるため、平成14年度から「新ひょうごの森づくり」を推進しています。

また、特に平成18年度からは森林の持つ防災機能強化を早期・確実に進めるために「県民緑税」を活用した「災害に強い森づくり」にも取り組んでいます。

さらに、森林の保全・管理、森林病虫害被害対策にも取り組み、県民の安全・安心な暮らしを守る「生活を豊かにする森づくり」を促進します。

1 新ひょうごの森づくり・第2期対策の推進

森林の持つ公益的機能の高度発揮に加え、本来の経済林としての再生をも進めるため、「新ひょうごの森づくり・第1期対策（平成14～23年）」をさらに継続・発展させ、「公的関与による森林管理の徹底」「多様な担い手による森づくり活動の推進」を基本方針とする「新ひょうごの森づくり・第2期対策（平成24～33年）」を推進しています。

(1) 森林管理100%作戦

間伐が必要な60年生以下のスギ・ヒノキ人工林について、国の公共造林事業による間伐及び作業道開設の補助残額を県・市町が連携して公的負担を行い、森林管理の徹底を図る。

- ・「森林管理100%作戦」推進事業 84,938千円
- ・暮らしを支える森づくり事業 4,408,199千円

(2) 里山林の再生

集落周辺の里山林において、地域住民等が自ら行う森林整備活動に対して、資・機材費等の支援を行い、健全な森林への誘導を図る。

- ・住民参画型里山林再生事業 15,300千円

(3) 森林ボランティア活動促進

各ボランティア団体における次代のリーダーを養成する講座を実施し、森林ボランティア活動の継続とさらなる活性化を図る。

- ・森林ボランティア・リーダー養成講座の開催 976千円

(4) 企業の森づくりの推進

企業・団体等が社会貢献活動の一環として行う森林保全活動をさらに推進するため、(公社)兵庫県緑化推進協会の指導体制を強化し、多様な担い手による森づくりを推進する。

- ・企業・団体等の年間活動計画等の策定に係る技術者派遣、研修会の開催 1,536千円

(5) 森林への理解と関心を高める普及啓発

森の大切さや森林整備の重要性について、子どもから大人まで広く県民の理解と関心を高め、森づくり活動へ誘うため、森づくり活動などを体験する参加型イベントの実施や森林環境教育を進めるとともに、地元と都市住民の交流の場、親子・家族が身近に自然と触れあえる場を提供する。

- ・「ひょうご森のまつり」の開催 1,000千円
- ・三木山森林公園管理運営費事業 108,548千円
- ・ふるさとの森公園管理運営事業（6公園） 173,280千円

2 県有環境林の管理

乱開発の抑制等に貢献してきた先行取得用地等について、森林の公益的機能に着目し、県有環境林として適切な管理を行う。

- ・県有環境林管理事業 12,520千円

3 災害に強い森づくり・第2期対策の推進

森林の防災面での機能強化を早期・確実に進めるため、平成23年度から5年間延長された「県民緑税」を活用して「災害に強い森づくり」を推進する。併せて、平成24年度からは、国の公共造林事業等を活用した「広葉樹林化促進パイロット事業」を推進している。

(1) 県民緑税充当事業・第2期対策（H23～29年度）

- ・緊急防災林整備
[斜面对策：939ha、溪流対策：調査40箇所、森林整備36箇所] 876,970千円
- ・里山防災林整備
[基本計画調査300ha、整備300ha] 430,700千円
- ・針葉樹林と広葉樹林の混交林整備
[計画調査設計200ha、作業道開設200ha、広葉樹植栽200ha] 254,000千円
- ・野生動物育成林整備
[基本計画調査410ha、森林整備460ha] 324,790千円
- ・住民参画型森林整備
[森林整備22ha] 28,050千円

(2) 公共造林事業等活用事業（H24～33年度）

奥地林など収益性が低く伐採の進まない高齢人工林について、群状伐採し跡地に広葉樹を導入す

森を楽しむ

春の六甲山で見かけた樹の花など

寄稿 小椋 孝

「森林を活かし・守り・育て・拡げる」そして「森を楽しむ」身近なところにもこんな可憐で美しい光景が溢れています。ちょっと出かけて森を楽しみませんか。

◎マルバアオダモ (モクセイ科)

日当たりのよい山地にふつうに見られる落葉高木で、高さ5〜15mになる。花期は4〜5月、新枝の先に円錐花序をだし、白い花を多数つける。



マルバアオダモ

◎コバノガマズミ (スイカズラ科)

落葉低木で、高さ4mほどになる。花期は4〜5月、枝先に直径3〜7cmの散房花序を出し、白い小さな花を多数つける。ガマズミやミヤマガマズミに比べて葉柄が短い。



コバノガマズミ

◎ウワミズザクラ (バラ科)

日当たりのよい谷間の斜面などに生える落葉高木で、高さ20mほどになる。花期は4〜5月、葉の展開後に新枝の先からのびた長さ8〜15cmの総状花序に白い花が多数密集してつく。



ウワミズザクラ

◎アセビ (ツツジ科)

山地の日当たりのよいところに生える常緑低木〜小高木で、高さ1〜8mになる。花期は2月下旬〜5月、枝先から10〜15cmの円錐花序を出し、白色の花が下向きに

垂れ下がるように咲く。名前の由来は、馬が葉を食べると酔ったようになるといふことで「馬酔木」の当て字がある。



アセビ

◎シロモジ (クスノキ科)

山地の落葉樹林内に生える落葉低木で、高さは5mほどになる。花期は4月、葉の展開前に、黄色の花が4〜5個集って咲く。葉は3中裂し、風変わりなので、茶庭に植えられる。



ムシカリ

◎ムシカリ (スイカズラ科)
落葉小高木で、高さは6mほどになる。花期は4〜6月、枝先に直径6〜14cmの散房花序を出し、白い花を多数つける。中心部には小さな両性化が集りそのまわりに装飾花がつく。



シロモジ

◎シキミ (シキミ科)

常緑小高木で、高さは5mほどになる。花期は3〜4月、葉腋に直径2〜3cmの黄白色の花をつける。
名前の由来は、果実が有毒であることから「悪しき実」で、抹香くさい仏縁が悪がとれ、シキミになったといわれている。



シキミ

◎ヤマツツジ (ツツジ科)

晩春から初夏にかけて、山地を彩るもっとも親しまれている野生のツツジ。半常緑低木で、高さ1〜3mになる。花期は4〜6月、枝先に朱色の花を2〜3個つける。



モチツツジ

◎モチツツジ (ツツジ科)

低山や丘陵地の林縁などに生える半常緑低木で、高さ1〜2mになる。



ヤマツツジ

◎ウツギ (ユキノシタ科)

日当たりのよい山野の林縁などに生える落葉低木で、高さ1〜3mになる。花期は5〜7月、枝先に円錐花序を出し、白色の花を多数下向につける。旧暦4月の卯月に花が咲くことから、卯の花の別名がある。



ウツギ

西播磨地域における野生鳥獣被害対策について

西播磨県民局 光都農林水産振興事務所

一 はじめに

西播磨県民局管内では、シカ・イノシシを中心とした野生鳥獣による農林業被害額は平成二十四年度九千百万円で、特にシカによる被害が四千八百万円と約五三%を占めています。

そこで、シカによる被害対策を防除・捕獲・シカ肉利用の三本柱で推進するため、平成二十三年度に光都農林水産振興事務所が中心となり、市町に呼びかけて「西播磨シカ被害対策連絡会議」を設置し、総合的な対策を推進しています。

また、管内では、獣害に強い集落づくりを進めるため、防護柵の設置と合わせて野生動物育成林整備事業も積極的に取り組んでいます。

二 シカ肉利用の推進

管内のシカ捕獲頭数は、平成二十四年度九、一四〇頭と県下捕獲数の約三割を捕獲しています。



シカ肉給食を食べる小学生

今後さらに捕獲拡大を進め被害の軽減につなげるためには、シカ肉の有効利用、消費拡大を図る必要があったことから、西播磨シカ被害対策連絡会議では、特にシカ肉の利用促進を重点に取り組んでいます。

優れた特性を持つシカ肉を、管内の学校給食に使ってもらうため、シカ肉料理講習会から取組みを始め、県民局予算で給食実施時のシカ肉と豚肉の差額補助を行うなどし、年間三〇校以上の小中学校でシカ肉が導入されています。

また、家庭料理にもシカ肉を取り入れてもらうために、シカ肉料理のレシピ集を作成しPRするとともに、JA兵庫西女性会等を対象にシカ肉料理講習会を開催しています。

さらに地域でのシカ肉利用を促進するため、イベントでのシカ肉提供や、普及用のぼりの作成・配布、新たなシカ肉加工品の開発、ジビエシンポへの協力・後援等を行いました。

今後とも、学校・家庭・地域でのシカ肉の利用拡大を促進し、定着を図っていきます。

三 野生動物育成林整備の取組み

平成十八年度から県民緑税が導入され、これを活用する「災害に強い森づくり」の中で、人と野生動物が共存できる森林の育成を目指す「野生動物育成林整備事業」を進めてきました。管内でもこれまで一六箇所、約三三八〇haの区域内で野生動物との棲み分け干渉帯（バッファゾーン）などの森林整備を実施してきました。

これらとあわせたシカ防護柵の設置延長も、管内計約二三五kmにのびています。

整備を行った地域では、防護柵の設置・点検、シカ・イノシシの捕獲などの獣害対策が効果を上げています。地域の人たちの獣害に強い集落づくりへの関心も高まり、森林管理などの継続した取組みが期待されます。



バッファゾーンの整備状況

四 おわりに

西播磨地域では、シカ・イノシシの獣害の他にも、南部ではアライグマなどによる被害の増加も懸念されています。今後は、若手ハンターの育成などにも新たに取組み、これらの捕獲対策とあわせて、農業関係者とも連携を図りながら、シカ肉の利用拡大と集落ぐるみの獣害対策を推進していきます。

資格で守る + あなたの安全

キャタピラー教習所 兵庫教習センター



刈払い



チェーンソー



小型移動式クレーン

玉掛け



高所作業車

〒675-1307 小野市菅田町南野739-14

☎ 0794-67-2211



住化グリーン[®]の林業薬剤

松枯れ予防剤

ヤシマモリエートマイクロカプセル
スミパインMC
マツグリーン液剤2

駆除薬剤

ヤシマパークサイドF
くん蒸剤
ヤシマNCS

蜂、ヤマビル資材

ハチノックL (蜂巣退治用)
ハチノックS (蜂撃退携帯用)
ヒルノック・エコ (ヤマビル忌避剤)



松枯れ少量樹幹注入剤

マッケンジー

ナラ枯れ予防樹幹注入剤

ケルスケツト



住化グリーン株式会社

東京都中央区八丁堀4丁目5番4号

大阪営業所：大阪府淀川区西区中島7-1-26
TEL：06-6886-0241 / FAX：06-6886-0242

“治山・林道測量”

株式会社

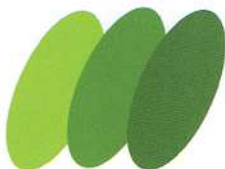
は経験と実績のある

石原測量

コンサルタント



本社 兵庫県宍粟市山崎町 船元250-1
Tel (0790) 63-1377
Fax (0790) 63-1398
営業所 兵庫県姫路市夢前町蒔野1078-3
Tel (079) 336-1418



土・木・緑・そして人

とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社

グリーン興産

〒671-4141 兵庫県宍粟市一宮町東河内1003
Tel 0790(72)1553 Fax 0790(72)2327
URL <http://www.greenkousan.co.jp>
E-mail: info@greenkousan.co.jp

緑を育み水をつくる水源林造成事業



分収林方式により、水源林造成事業を進めています
対象地は無立木地など、公益的機能の低下した水源かん養保安林です

(独) 森林総合研究所森林農地整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所 TEL(078)371-2411
FAX(078)371-2413

兵庫県水源林造林協議会 TEL(078)371-2446

神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号

車両系木材伐出機械等運転業務特別教育について

労働安全衛生規則の改正により、平成26年度から「伐木等機械」「走行集材機械」「簡易架線集材装置等」の運転業務従事者に特別教育の受講が義務となりました。

平成26年度、当支部では次の講習会を予定しており、詳細は近日中に決定いたします。

- ① 上記3種類の機種いずれかに6ヶ月以上の従事経験者対象
 - 上記「3種類機械」特別教育（一括講習）… 県内4地域で実施
 - 「伐木等機械」特別教育のみ …………… 2回（予定）
- ② 従事経験6ヶ月以下・新規採用者対象
 - 学科・実技の特別教育 …………… 1回（予定）

平成26年度「安全衛生関係講習会」実施予定表

名 称	実施年月日	場 所
木材加工用機械作業主任者 技能講習	H26.7.3~4（予定）	姫路労働会館 （姫路市）
はい作業主任者技能講習	H26.8.7~8（予定）	姫路労働会館 （姫路市）
チェーンソー（大径木等伐木） 作業従事者特別教育	H26.5.1~2 他3回	中はりま森林組合 （神河町寺前）
刈払機取扱作業者 安全衛生教育	H26.8.29（予定） 他2回	中はりま森林組合 （神河町寺前）

※詳細は、当支部のウェブサイトをご覧ください

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号

Tel:078-371-0607 Fax:078-371-7662 URL:<http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/rinsaibou/>

「新緑の氷ノ山林道自然観察ウォーキング」に参加しませんか

対 象：県内にお住まいの方で、8:00林業会館前（元町駅から徒歩5分）に集合できる方

日 時：平成26年5月27日（火） 定 員：40名（定員を超えた場合は抽選）

参加費用：2,000円（バス代、昼弁当代、資料代、保険料）

申込方法：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入
1通で2名まで申込可（2名の必要事項記載の事、重複不可）

申込締切：5月2日（金）必着

問い合わせ申込先：（一社）兵庫県治山林道協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18

TEL:078-371-0210 FAX:078-371-6632 HP <http://www.chisanrindou.jp>



「緑の募金」にご協力をお願いします

緑の募金は地域の緑化活動への助成やボランティア団体への助成を行っています。
ご協力いただく募金は、金額の多少を問わず次の金融機関へ振込をお願いします。

ご寄付の方法

● 郵便払込（手数料無料）

郵便振込の場合、公益社団法人兵庫県緑化推進協会に直接お問合せ下さい。専用の払込取扱票用紙をお送り致します。

● 銀行振込（振込手数料が必要）

口座：三井住友銀行兵庫県庁出張所

普通 3198438

名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会



公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL 078 (341) 4070 FAX 078 (341) 4071
URL : <http://www.hyogo-green.net/>

エムシー緑化の 林業用薬剤

ススキ ササ地に

松枯防止樹幹注入剤

フレック® 粒剤10

マツガード®

発売元 **正和商事株式会社**

大阪市中央区道修町1丁目3番4号 〒541-0045
TEL 06 (6203) 4541 FAX 06 (6203) 4347

私たちは、緑を育て、緑を守っています。



〒650-0012
神戸市中央区北長狭通 5-5-18
兵庫県森林組合連合会
TEL : 078-341-5082
FAX : 078-341-6936
E-mail : hyogomori@hyogomori.jp
HP : http://www.hyogomori.jp/

森林国営保険

林業経営を守る、鉄壁の補償力。

森林所有者の方が整備した森林はもちろん、企業や団体の森づくり活動で整備した森林についてもご契約いただけます。



お問い合わせ先 兵庫県豊かな森づくり課森林保全係 TEL 078-362-3473
兵庫県森林組合連合会 TEL 078-341-5082

Husqvarna

550XP-JP/XPG-JP

レッドトッド・デザイン賞2013

ベスト・オブ・ベスト受賞製品



AutoTune

■排気量 : 50.1cm³

■出力 : 2.8KW

■質量 : 4.9/5.1kg (XPG)

本当の価値が分かる方へ!

安全と作業効率を追求し続けるハスクバーナは、プロが認めるチェーンソーの最高峰です。革新的な技術を融合し、これまで以上のパワーでさらなる軽量化に成功した500シリーズをぜひお試しください。

愛林興業株式会社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181 番代
神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570 番
但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101 番

兵庫の巨樹・巨木(9)

⑫ 浜坂のアカメヤナギ

【幹周460cm、根回りはさらに太くなり、樹高12m】・浜坂町福富・三柱神社の境内・県の郷土記念物・県及び・町指定の天然記念物である。



木登りに挑戦する小学生

久斗川と岸田川の合流地点にできたデルタともいえる水田地帯の中にある境内に残されている古木である。樹形も人の心を打ち、樹幹に近づくとも心臓の鼓動が高まりそうな巨木である。調べた限りでは国内では最高の大きさを誇っている。ヤナギの仲間は花が咲いても低木のネコヤナギなど以外はほとんど注目されずに終わってしまう。

う。しかし花後の新緑は見事である。ただ、この老樹は近年周辺の開発や近代化に伴い樹勢の衰えがみえ、2004年度からその土壌改良が実施されその環境改善が図られた。地区でもその自主対策を進めようと、大樹の生命線である根回りの環境改善が実施された。数十年前の湿田状にまではほど遠いが水回りに改善がなされた。かつての周辺の子供達は巨木を崇めつつも遊びの好対象として樹肌がツルツルになるほど木登りして遊んだという。



アカメヤナギの雌花(上)と雄花

県下のアカメヤナギの第2位は宍粟市波賀町の川端にある幹周400cmである。この株元をのぞくと水中に細かい根をいっぱい泳がせている。この環境がアカメヤナギの本来の自生地なのである。



波賀町のアカメヤナギ

ヤナギの悲運

豊岡の「柳まつり」は、昭和10年に「小田井神社」の境内に「柳の宮神社」が再建されたのを機に、但馬最大の夏祭りとして賑わっている。豊岡特産の柳行李の守護神として祀られるのである。

しかし、ヤナギの自生地や適地は前述の川の傍とか湿地である。老樹になるまで川の傍で住民に崇められてきていても河川工事の邪魔者扱いなる例がよくある。本誌のNo.265号に県下最大のゴゴメヤナギの例を挙げたが今号では宍粟市山崎町須賀沢の揖保川沿いに自生していた県下三番目に大きかった古木が伐採排除されてしまった事実を挙げておこう。NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」ゆかりの地としての撮影地を望んだ山崎市民の心にはこの老樹の訴えが浸透し

ていなかったと見える。古城の古を偲ぶには老樹は必須であると思うのであるが読者はいかようにお考えでしょうか。



今は無き山崎のアカメヤナギ

丹波の六本柳のように柳のつく地名は多い。古の自然景観を教えてください。古の自然景観を教えてください。古の自然景観を教えてください。



柳に敬意を表して フリソデヤナギ(ヤマネコヤナギとネコヤナギの雑種である)の美花

- 樹木医 橋本光政
- 樹木医 宮田和男
- 森林林業技術センター 塩見晋一
- 樹木医